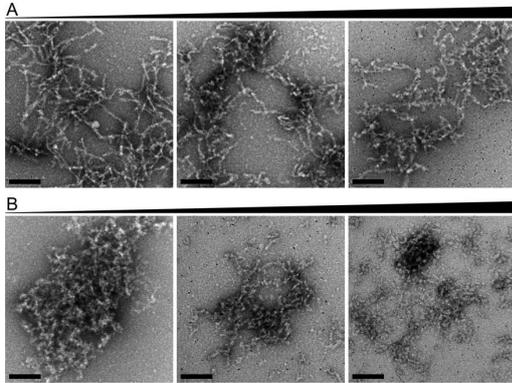


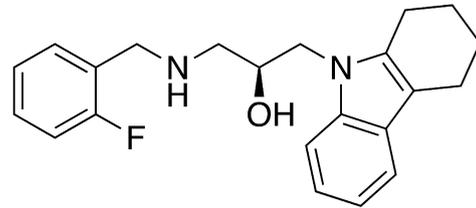
プリオン立体構造変換原理の解明とその制御

研究分担者: 岐阜大学大学院連合創薬医療情報研究科 桑田一夫

1. 構造変換メカニズムの解明

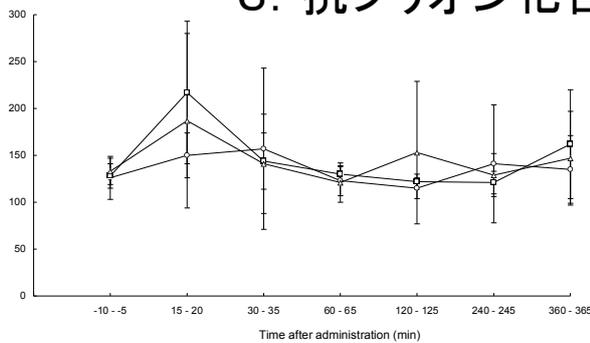


2. 抗プリオン化合物の最適化

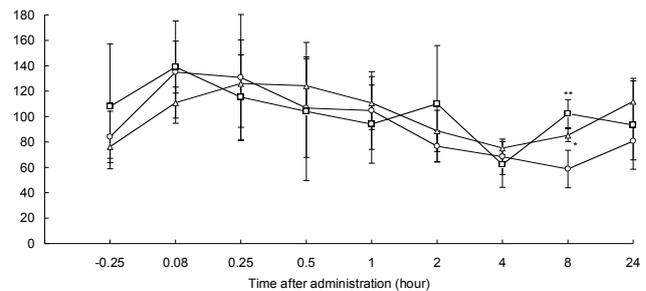


Anti-prion compound
 IC_{50} : 1.11 μ M
(GT+FK cells)

3. 抗プリオン化合物の安全性薬理試験



呼吸数



心拍数

解説

1. 超音波の照射強度や持続時間を変えることにより、生ずるプリオン凝集体の‘かたち’や‘大きさ’を制御できることが分かった。
2. プリオン病治療薬候補のひとつとして、カルバゾール骨格を有する低分子化合物を最適化した。
3. 開発した抗プリオン・リード化合物(GN8)に対し、生体に投与した場合の安全性を評価した。